

新年ご挨拶

経済産業省 商務情報政策局 情報産業課長

西川 和見



令和3年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

昨年、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、わが国経済は戦後最大の落ち込みを記録し、国難とも言うべき危機に直面しました。他方で、この危機の中には「新たな日常」への模索を通じ、変革の機会を多く見出すことができます。

これから先に訪れるウィズコロナ・アフターコロナの時代に向け、私たちが抜本的に取組を強化すべき分野は、特に「デジタル化」と「グリーン社会」への転換です。

新型コロナウイルスへの対応の中で、国、自治体をはじめ社会全体におけるデジタル化の遅れや人材不足、不十分なシステム連携に伴う煩雑な行政手続きなどの課題が浮き彫りになりました。こうした中、政府では社会全体のデジタル改革をリードするデジタル庁の創設を打ち出し、昨年末にその基本方針を決定しました。

これまで日本の政府・自治体では、組織ごとにばらばらにシステムが整備され、システム連携ができないことにより、行政サービスの品質が低下していました。また、行政側のIT調達に関する知識・能力不足により、先端的な国家の行政サービスとの差は拡大しました。

今後、デジタル庁が創設されることで、行政側が「賢く」なり、IT調達が集約的に実施されることで、ニーズや使いやすさを重視した最新のシステム導入、政府のDXが進んでいくと考えています。

さらに、経済産業省では、民間企業のDXを推進するために昨年「DXの加速に向けた研究会」を開催し、12月末に中間取りまとめとして「DXレポート2」を公表しました。貴協会にも研究会のオブザーバとしてご参加いただきましたが、企業を取り巻く環境が大きく変化する中で、組込みソフトウェア産業においても迅速な変革が求められており、引き続き皆様と共に議論を進めていきたいと考えています。

また、アフターコロナでは、5G・AI・IoT・DX等のデジタル革命の更なる進展が予想されます。経済発展と社会的課題の解決の両立を目指す社会「Society5.0」の実現に向け、その基盤となるデジタル技術は、今後の日本の経済・社会を支える一番の成長のエンジンであり、自動走行・ファクトリーオートメーション・遠隔医療・スマートシティ等、様々なソリューションビジネスが期待されています。

これまで組込みソフトウェア産業分野は、リアルタイム制御をはじめとした高い技術力により、わが国の産業を支える重要な役割を担ってきました。そしてコロナ禍におけるこの「デジタル化」の加速により、多くの社会活動が遠隔・非接触・非対面で行われるようになると、それを可能とするオンライン技術の核となる組込みソフトウェアが果たす役割は一層大きくなると考えています。様々な分野において、かつて体験したことがないようなサービスを実現するための次世代ソフトウェア開発など、貴業界を挙げて積極的に取り組んでいただくことを期待しています。

次に、「グリーン社会」への転換について、今や気候変動問題は人類共通の解決すべき課題となっています。世界でも、先進国を中心に多くの国や地域がカーボンニュートラルの旗を掲げて動き出しており、「グリーン社会」への転換が求められています。昨年、わが国も「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言しました。わが国が総力を挙げて挑戦し、一つ一つの課題を解決していくことは、新たなビジネスチャンスにもつながる、成長戦略そのものです。

情報の利活用、デジタル化が急速に進展する中、グリーン成長戦略を支えるのは強靱なデジタルインフラであり、グリーンとデジタルは、車の両輪です。脱炭素社会の実現は、世界で誰も成し遂げたことのない非常に大きなチャレンジです。デジタルの根幹を支える組込みソフトウェア産業界の皆様のお力もお借りしながら、この大きなチャレンジをチャンスに変え、グリーン・デジタルによる成長を実現していきたいと考えています。

本年も、貴協会及びその関係者の皆様と一層の連携を図りながら、ソフトウェア産業、そして日本経済の更なる発展に向けて、積極的に取り組んでまいります。皆様の御協力のほどよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、皆様の御健勝と御発展を祈念し、新年の御挨拶とさせていただきます。